



2023年8月14日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 へ り オ ス
代 表 者 名 代 表 執 行 役 社 長 CEO 鍵 本 忠 尚
(コード番号：4593 東証グロース)
問 合 せ 先 執 行 役 CFO リチャード・キンケイド
(TEL：03-4590-8009)

(開示事項の経過)
eNK®細胞を用いた治療法の研究開発推進のための
子会社設立に関するお知らせ

2023年7月11日付適時開示「[eNK®細胞を用いた治療法の研究開発推進のためのサイセイベンチャーズとの基本合意書締結と子会社設立に関するお知らせ](#)」のとおり、当社は、固形がんを対象として遺伝子編集技術により特定機能を強化した他家iPS細胞由来NK細胞※1(開発コード：HLCN061、以下、「eNK®細胞(engineered NK cells)」と言います。)を用いた次世代がん免疫細胞療法の研究・開発を推進するための子会社設立を決定した旨発表致しました。

この度、当該子会社の詳細を決定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 子会社の概要

① 名 称	株式会社 eNK Therapeutics
② 所 在 地	東京都千代田区
③ 代表者の役職・氏名	代表取締役 齊藤 光
④ 事 業 内 容	医薬品の研究、開発、製造及び販売
⑤ 資 本 金	1円
⑥ 設 立 年 月 日	2023年8月14日

2. 子会社設立の日程

- ① 執行役会決議日 2023年7月11日(設立)
2023年8月14日(詳細)
- ② 設 立 年 月 日 2023年8月14日

3. 今後の見通し

設立子会社の財務諸表は2023年12月期第3四半期より連結する予定です。本件に関して、2023年12月期業績に対し現時点で確定した影響はありません。今後開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせ致します。

以上

■へリオス eNK®細胞について

eNK®細胞は、遺伝子編集技術により細胞傷害活性の増強だけでなく、患者免疫細胞のリクルート(呼び込み)や固形がんへの浸潤特性も強化された、当社独自の遺伝子編集iPSC NK細胞プラットフォームです。当社では、自社研究の成果として、eNK®細胞の作製に成功するとともに、eNK®細胞がヒト肺がん細胞生着マウスモデル、ヒト肝がん細胞生着モデルマウス、ヒト中皮腫細胞生着マウスモデル、さらに肺がん患者由来のがんオルガノイド

(F-PDO®: Fukushima Patients Derived Tumor Organoid) に対して抗腫瘍効果を有することを確認しています。また、[国立研究開発法人国立がん研究センターと共同研究](#)にて、国立がん研究センターが保有する複数種類のがん種に由来する PDX (Patient-Derived Xenograft: 患者腫瘍組織移植片) マウスを用いて eNK®細胞の抗腫瘍効果等の評価を進めております。さらに、[国立大学法人広島大学大学院](#)と eNK®細胞を用いた肝細胞がんに対するがん免疫細胞療法に関する共同研究を、[兵庫医科大学](#)と eNK®細胞を用いた中皮腫に対するがん免疫細胞療法に関する共同研究を進めています。当社は、eNK®細胞が抗腫瘍効果をより発揮しやすい固形がんの種類探索・評価を進めています。

■株式会社ヘリオスについて

再生医療は、世界中の難治性疾患の罹患者に対する新たな治療法として期待されている分野であり、製品開発・実用化へ向けた取り組みが広がり、近い将来大きな市場となることが見込まれています。ヘリオスは、iPS 細胞 (人工多能性幹細胞) 等を用いた再生医薬品開発のフロントランナーとして、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。2011 年に設立、2015 年に株式上場 (マザーズー現東証グロース:4593) し、再生医薬品の実用化を目指して研究開発を進めています。独自の遺伝子編集技術を用いて免疫拒絶のリスクを低減する次世代 iPS 細胞、ユニバーサルドナーセル (UDC: Universal Donor Cell) を作製し、がん免疫領域、眼科領域、肝疾患等において、iPS 細胞技術を用いた新たな治療薬の創出のための取り組みを進めています。iPS 細胞由来の再生医療等製品としての第一候補である HLCN061 は、固形がんに対する殺傷能力を遺伝子編集により強化した次世代の NK 細胞 (eNK®細胞) 治療薬です。また、体性幹細胞再生医薬品を用いて日本国内における脳梗塞急性期および急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) に関する治験を実施し、申請に向け規制当局との協議を進めています。
<https://www.healios.co.jp/>